

第3学年 国語科学習指導案

日時 平成18年11月 8日(水)

学級 3年B組(男子15名,女子13名,計28名)

指導者 教諭 小松 彩香

1 単元名 五 論理の展開

教材名 「生き物として生きる」中村桂子

2 単元について

本単元は、「文章の論理的構成をとらえ、自分の意見を深める。」ことを目標としている。「文章構成や根拠・理由に着目して、筆者の考え方を読み取る力」を確かなものとすることができ、更には「自分の主張を的確な根拠を挙げて示し、客観的な視点から見直し、説得力のある意見文を書く力」を総合的に身に付けられる単元である。

本教材の「生き物として生きる」は、生物学者である筆者が、機械と同じように生き物(人間)までも「思いどおりに」作ろうとすることに「歯止め」をかけ、人間も「生き物として生きる」暮らし方を考える必要があると説いた論説文である。全体的に客観的な表現で書かれているので、筆者の意見は指摘しやすい。文章を大きなまとまりとしてとらえさせたあと、根拠となる一文、そして語句へと着目できるようにしていきたい。また、一般的な意味と異なる文脈上の意味を与えられている語句に対して、その背景となる筆者の意図や考えを明確にとらえる力を学ぶこともできる。日常のありふれた言葉の在り方から、生命と科学技術のかかわりに目を向けさせるのに適した教材である。

3 生徒について

全体的に落ち着いた生活ができ、授業では積極的に発言するなど向上心を持って取り組む雰囲気ができている。しかし、じっくりと考えることを苦手としており、自らの力で課題を解決し、自信を持って発表することへは補助発問等の支援を必要とすることが多い。

国語に関しては、わからない言葉に出会っても深く考えず、そのままにする傾向があるため、語彙力は低い。特に説明的な文章に関しては、「難しい言葉が多く、読むのが面倒くさい」と感じているようである。そこで、語彙力の向上をねらって、辞書の利用や短文作り、また、漢字クロスワードや漢字ナンクロも取り入れている。

小集団の利用に関しては、生活班において班長を中心とした活動ができる。学級全体としては、人間関係から小グループが形成されているが、困っている友人を助けたり、協力したりすることができる。学習時においても、グループ内の教え合いができている。

4 指導について

「確かな読み」とは本文の語句に根拠を求めて読んでいくことと捉える。本教材においても「根拠や理由に着目」することが一つの大きなねらいとなっている。そのためには、言葉の意味の辞書的なとらえだけでは不十分であり、また、文脈から意味をとらえる前に語句を使えるようにしておくことは要旨の把握の大きな手がかりとなるであろう。さらに、本教材の後に「説得力のある文章を書こう」という意見文作成が控えているため、語句の世界を広げ、語句に敏感にしておくことは重要と考える。

そこで、短文作成を通して語彙力を高め、小集団を利用することによって主体的に語彙力を高める活動を盛り込んでいく。

5 単元の指導目標

- ・筆者の挙げる根拠や理由に注意して、生命と科学技術について考えを深める。
- ・根拠を明らかにし、客観的な視点から見直して、説得力のある意見文を書く。

6 指導計画

第1時 範読や音読をし、段落分けをする。

第2時 文脈における語句の意味を確認し、その語句を用いた短文作りをする。

(本時)

第3時 「作る」という考え方における「機械」と「生き物(野菜)」のちがいについて、どのように述べているかを読み取る。

第4時 「作る」という考え方における「機械」と「人間」のちがいと「遺伝子」のとらえ方について、どのように述べているかを読み取る。

第5～8時 「生き物として生きる」を参考にして、根拠を入れながら、意見文を書く。

7 本時の指導

(1) 目標

- ・語句に関心を持ち、短文作りに積極的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)
- ・語意を理解し、自分の言葉に役立てている。(読むこと)
- ・多様な語句への理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。(言語事項)

(2) 本時の具体の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
A：十分満足できる	語意を学ぶことや短文作りに積極的に取り組み、発表しようとすることができる。	文脈に即した語意を理解し、自分の言葉の使い方に役立てることができる。	場面を設定し、語意をいかしながら、2つ以上の語句を入れて、短文を作ることができる。
B：概ね満足できる	語意を学ぶことや短文作りに積極的に取り組むことができる。	語意を理解し、自分の言葉の使い方に役立てることができる。	場面を設定し、語意をいかした短文を1つ以上作ることができる。
C：努力を要する生徒への支援	導入時にフラッシュカードで読みを確認する。本文の文の型を用い、語句を入れ換えることで、短文が出来ることを助言する。	意味を載せたプリントを利用しながら、教科書の文を提示して使えるように指導していく。	本文の型を用い、語句を入れ換えて短文を作るよう助言する。

(3) 展開

	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	評価・備考
導入 (5分)	1 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を確認する。 ・難語句の読み書きについて確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想等を話し，簡潔に行う。 ・フラッシュカードを提示して，確認する。 ・使えることが目標であることを話す。 	フラッシュカード
	語の意味を確認し，言葉の世界を広げよう。			
展開 (40分)	2 通読	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を通読し，難語句の使われ方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起立させることにより，意識を集中させる。 	微音読 集中して読んでいるか。
	3 意味把握	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書的な語句の意味を知る。 ・別な語句での言い換えについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布し，辞書的な語句の意味を知らせる。 ・直感的なものには根拠を求めていく。 	前時の読みから提示する。 文脈から考えているか。
	4 短文作成	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された語句を二つ以上用いて文を作る。(個人) ・個人の考えを小集団でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書はしまわせる。 ・既習事項を生かし，場面や状況がわかるように作るよう指示をする。 ・ゲーム性を持たせ，すべての語句を用いて文章を作ることを目標にする。 ・プリントを活用させる。 	故事成語の想起 二つ以上入れた文を積極的に作っているか。 思いつかない生徒への個別の支援 班内の役割分担を明確にする。
	5 発表	<ul style="list-style-type: none"> ・使っている語にチェックしながら，他の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいまいな意味の使われ方には教師から後で確認することを話す。 	真剣に聞いているか。
	6 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使える言葉が増えたか。 	
7 次時予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習したことを生かしながら，論の進め方について学習する。 		
終末 (3分)				